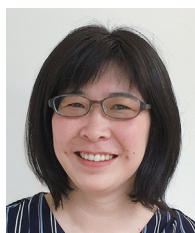


たくさんのサポートによる仕事と私事



佐藤しのぶ

九州工業大学工学研究院物質工学研究系
[804-8550] 北九州市戸畑区仙水町1-1
准教授, 博士(工学).
専門はバイオ分析化学.
shinobu@che.kyutech.ac.jp
<http://takenaka.che.kyutech.ac.jp/index.html>

筆者は高齢出産であり、三十代後半で長女を出産した。体調も良く、出産直前まで仕事をしていた私も、子供が生まれると生活は一変し、子供中心の生活へと変化した。今回は仕事と私事について述べる機会をいただいたので、どのようにして働きながら子供たちとの日々を過ごしているのかを紹介したい。

コロナウイルスの流行により、現在は在宅勤務が珍しくなくなったが、長女が産まれたのち、2016年度末から、在宅勤務制度を利用し始めた。産後仕事への復帰は、育児休業を取らず、産後休暇終了後すぐに週に2日在宅勤務を、3日は大学へ出勤という形からスタートした。大学への出勤は午前中のみなど短い時間からであったが、この頃には、長女はミルク育児のおかげで夜中ほとんど起きない状態になっていたこと、夫も夜中のミルクを担当してくれたので、寝不足もなく仕事への復帰はスムーズに行えた。お互いにフルタイム勤務だった夫とは結婚してから出産までの間、家事を完全に分担できていたので、出産後も家事を含め育児もほぼ夫と分担することに成功した。

第2子である次女を出産して半年後、ようやく長女は幼稚園に入園し、さらに半年後、次女は保育所入所という現在のスタイルへと至った。幼稚園は8時半から、預かり保育は17時半までである。夫は終業時間の関係で子供のお迎えができないため、私の仕事の可能な時間は9時から17時である。しかし、幼稚園は14時にほとんどの園児が降園するため、長女はかなりの確率で預かり保育を渋り、また、午前保育の機会も多く、仕事時間が思うように取れないことも多い。そこで、現在は毎週金曜日に子供たちは実家に移動し、日曜日に子供たちを迎えに行っている。金曜日の夜から、日曜の昼過ぎまで、平日にできなかった仕事や翌週の授業の準備を行い、足りない仕事の時間を補完している。

このスタイルを説明すると、子供たちだけで、祖父母宅にお泊りできることに驚かれることが多い。祖父母は全面的に協力してくれ、長女を保育園に預けるまでは、在宅勤務以外のときは祖父母が長女を保育してくれていた。長女の幼稚園入園時期(次女生後5~10カ月の頃)には、環境の新しくなった長女のケアを優先すべく、平日、次女は祖父母宅で過ごし、週末家

族で過ごすというスタイルをとっていた。このように祖父母になつた姉妹は、祖父母宅に行くときは非常に楽しそうにしており、母にたいへん元気良く「じゃあねー。おしごとがんばってねー。ばいばーい。」と言ってくれる。

何もなければこのようなスケジュールで比較的工作はこなせるのだが、子供が病気の場合は、夫婦でどちらが外せない仕事をもっているかプレゼンし、融通の利くほうが休んで対応している。子供が病気の場合は、仕事はとりあえず後回しとし、子供を優先するように心がけている。そのためなのか、たまに、明らかに、「そのくしゃみは風邪ではないよね？」というかわいらしい風邪のふりを子供たちがすることもあり、少し困っている。

子供がいる状況でも比較的工作ができていく状況は、周囲のサポートによることが多く、サポートを受けられる状況である私は幸運であったと思っている。長女1歳半の頃は祖父母に預けてイタリアでの国際会議に参加し、次女生後8カ月の頃には長女と次女を祖父母に預けて、台湾に出張していたが、とうとう長女が来年小学生になる。多くの年会、討論会のある9月は、これまで夫と出張時期がかぶることが多かった。おそらく、来年以降も同じ時期に夫は出張すると予想される。これまでは子供たちの幼稚園、保育園を休ませて学会に参加していたが、小学生になると子供たちを休ませるわけにもいかず、しばらくは平日開催される学会には参加できないだろうと思っている。今後5~6年は子供の帰宅時間に帰れない場所での対面学会になかなか参加できない状況になるかと思うと、さすがに少し気が重くなってしまふ。オンライン会議、オンライン学会が主流だったここ2年は、子育て中の筆者にとっては大変助かる状況で、本来であれば参加できない会議、学会に多く参加することができた。現在、長らくオンラインであった講演会や学会も対面へとシフトしているが、可能であるならば筆者だけでなく、現在子育て中のママ、パパが学会に参加できるよう、ハイブリッド形式の学会、発表様式が残るよう願っているところである。